

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」の素案に対する 市民意見提出手続の実施結果

◆ 意見募集期間

平成29年12月15日(金)から平成30年1月15日(月)まで

◆ 意見提出状況

- | | |
|------------|------|
| (1) 提出者 | 69人 |
| (2) 提出意見数 | 119件 |
| (3) 意見提出方法 | |
| ア 持参 | 16人 |
| イ 郵便 | 4人 |
| ウ ファクシミリ | 33人 |
| エ 電子メール | 16人 |

(4) 提出された意見の内訳

分類目	件数
計画全般に関わるもの	29
目標①【健やか】いきいきと生活し、生涯活躍できる	(13)
生きがい・社会参加・地域貢献の推進	9
主体的な健康づくり・介護予防の促進による健康寿命の延伸	4
目標②【支え合い】高齢者とその家族、地域がつながる	(9)
見守り合い・支え合いの仕組みづくり	4
総合的な認知症対策の推進	4
高齢者を支える家族への支援	1
目標③【安心】住みたい場所で安心して暮らせる	(59)
身近な相談と地域支援体制の強化	2
介護サービス等の充実	53
権利擁護・虐待防止の充実・強化	0
安心して生活できる環境づくり	4
その他	9
合 計	119

(5) 計画への反映状況

分類名	件数	割合
①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定	63	52.9%
②追加・修正あり	7	5.9%
③追加・修正なし	46	38.7%
④その他	3	2.5%
合 計	119	

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
計画全般に関わるもの				
1	プランにある「高齢者の捉え方の意識改革」に賛成です。生涯、働き続け、社会貢献できる社会になれば良いと思います。よって、年金の税投入はなくし、いつまでも社会保険で死ぬまで給与とりの社会になれば、今の「社会保障費の増大」は防げると思います。あとは、地域で支えあう拠点(市民センターとか介護施設とか)で多様な人の支え合いでやっていければ、と思います。	年齢に関わらず、生涯現役で活躍いただくことは、社会保障制度の持続可能性だけでなく、それぞれの日々の生活の充足感を高めることでもありと考えています。このため、本計画においては、就労も含め、いきいきと生活し、生涯活躍できるための環境づくりを一層推進していくこととしています。また、高齢者等を担い手とした見守り・支え合いの仕組みをつくるための校区の「作戦会議」では、市民センターや介護施設をはじめ地域の多様な主体の取組を支援していくこととしています。	1	①
2	残念ながら、北九州市は人口が減り、高齢化(特に後期高齢者の増加)が他都市に比べて進んでいることがよくわかります。従って、高齢者がこれまでと同じような意識で、同じようなサービスを望み続けると、社会保障費は莫大に増え、次世代に大きな負担を強いることもよくわかります。私たちこれからの高齢者は、権利を求め倒し、医療を使い倒し、他人を頼り倒すことは肯定されません。別に医療費や介護サービスを使うなどということではありません。必要なサービスを自分も負担する覚悟で望まなければいけないということですよね。先日の「住みたい田舎」ランキングでもシニア部門で一位となっていました。行政や若い世代を頼り倒すシニアではなく、シニアになっても社会の一員として責任をもって活躍する、そんなシニアが移住してくれてきたらなとも思います。	人口減少・高齢化は本市固有の問題ではなく、我が国全体の傾向ですが、本市は、他の政令指定都市と比べても高齢化が高い割合で推移してきています。既に突入した超高齢社会を乗り越えるためには、人口規模の大きな層である高齢者の活躍を見据えた政策や仕組みの転換が不可欠です。このため、本計画では、市民や企業に対して、高齢化の進展に対応した啓発に取り組むこととしています。	1	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
3	高齢者が生き生きと生活できる環境づくりが進んでも、次世代を担う新しい働き手が確保できなければ、まったく意味を成さないと思います。北九州市でも少子化対策に取り組んでいますが、人口が増えない限り、自治体同士が人を奪い合うだけでしかないと考えます。限りある市の予算をちゃんと未来に生かすためには、少子化対策と一体となって考え、施策を進めるべきと考えますが、縦割りで難しいのでしょうか？	本計画は、本市の基本構想・基本計画の分野別の計画として位置づけられるものであり、「元気発進！子どもプラン」等それぞれの分野別計画と相互に連携を図りながら推進していきます。 また、計画の推進にあたっては、福祉、教育、住宅、雇用、産業部門等との連携を図ることとしています。	2	①
4	基本目標の「健康」は「健幸」にできないか。年をとっても生きがいややりがいを感じて、気持ちも幸せを感じると、住みやすさを実感できるのではないか。	本計画においては、施策の方向性として「健康寿命の延伸」を掲げていますが、これは、身体機能の自立ということだけでなく、自分の意思で、自分らしい暮らしを営むことができるような支援という視点も含んでいます。「健康」という言葉には、「からだや心の調子がよくて、元気な様子」と、精神のよい状態も含まれていますが、さらに一歩進んで、それぞれが「幸せ」を感じることができるということも、今後の取組にあたっての参考にさせていただきます。	3	③
5	少子高齢化がどんどん進んでいる世の中なので、スタッフの補充も大事。またその予算も多く必要なので、高齢者のための募金でもしたらいいと思う。また、老人ホームなどに入りたくないという高齢者の方も少なくないので、今の若い人達に老人ホームの良さなどを、今のうちに伝えていくと良いと思う。	今後、要介護リスクが高くなってくる後期高齢者(75歳以上)人口は増加し続ける一方で、生産年齢(15-64歳)人口の減少は継続すると見込まれています。このため、高齢者の在宅生活を支えるため、ボランティア、NPO、民間企業、社会福祉法人、協同組合等の多様な事業主体による重層的な生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築を支援していくこととしています。 また、本市では、住民参加による、先駆的な福祉サービスや地域福祉の向上に役立つ活動などを対象に活動の助成をしており、この予算は、皆様からの寄付による北九州市地域福祉振興基金(ひまわり基金)から賄われています。 人口の減少・高齢化は今後も進展が見込まれていることから、高齢期に向けた「備え」について、現役世代への意識啓発にも取り組んでいきたいと考えています。	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
6	私は、今回の話を聞くまでこの政策を知らなかったのもっと北九州市の市民にPRする必要があると思います。	本計画の推進にあたっては、地域住民や保健・医療・福祉・介護関係者、民間企業、NPO、行政それぞれが、その役割を適切に果たしていくことが求められます。このため、市民の皆さん一人ひとりに、地域における支え合いや高齢社会対策の重要性を理解していただき、まちづくりを実践・継続していただけるよう、市政だよりや市のホームページの活用、市民にわかりやすいパンフレットの作成、地域に出向いて意見交換を行う「出前講演」の実施など、様々な機会を通じて計画内容の広報・啓発を行っていきたく考えています。	2	①
7	個人的には、このようなプランがあることをまったく認知していなかったのもっと高齢者だけでなく、若い人にも情報発信をしていったほうが良いと思います。大学生なので、もっと資料をわかりやすくし、がちがちの文章のみで表現するのではなく、もっとラフなものだと読みやすくなるのではと思った。		2	①
8	歳をとっても安心できる街にする為にもっとこの政策について知ってもらい、周知を広めることが必要なのではないかと思う。		2	①
9	まだまだ理解できている人は少ないと思う。(車椅子やお年寄りに対して)対処などを考えて行動するためには、少しずつ皆さんに理解してもらえるように講演会など、体験をしたりすることで深まると思いました。		2	①
10	A4で約130ページの介護保険事業計画は一部の専門家レベルの人しか読まないし他の人は読まない。また、読んでもさっぱり分からないのが現実だ。		2	①
11	「高齢者の捉え方の意識改革」の中で、特に「高齢者自身の意識改革と行動の改革」が最も重要と考えています。P.3の「背景と課題」に示されているように、2025年問題対策の如く、「とり巻く社会経済環境の変化」は「構造的変化」ともいべき大きな時代の変化であり、多くの人が部分的に認識しているか、ほとんど頭の中になく人が圧倒的に多いのが現状の最大問題点でしょう。ここを何とか皆んなで頑張らなければならぬと思います(色んな変化が、どんな点においてどのような影響を及ぼす可能性があるのかを理解させる、色んなデータ・情報を提示することが大切だと考えています。)		2	②

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
12	<p>(「とり巻く社会経済環境の変化」について、色んな変化が、どんな点においてどのような影響を及ぼす可能性があるのか、色んなデータ・情報で)勉強したことを、自分自身は勿論、家族等も含めて、年とともに、どのような問題が発生し、どのような対応をしたらよいか、ケーススタディ(シュミレーション。例えば、楽観的ケース、悲観的ケースも交え行う)で、自分のやるべきことを様々な観点からくり返し行う。これによって、就業対策、健康対策、生きがい等に、如何に対応すればよいか、判断力がアップします。</p>	<p>平均寿命が延伸する中、自分らしい暮らしを少しでも長く続けるためには、自分自身の「長いシニアライフ(老後)」を見据え、介護する側、される側いずれの立場でも、安心して日常生活を送ることができるように備えることが重要になります。このため、本計画についての啓発とともに、自分自身や家族のことで、実際に困りごとに直面したときに、適切な相談先に少しでも早くたどり着くことができるよう、高齢者のための保健・医療・福祉・介護に関する総合相談窓口である地域包括支援センターの一層の周知に取り組みます。また、年齢を重ねてもいきいきと充実した生活を送ることができるよう、高齢期に向けた備えについての意識啓発のほか、人生の最終段階の医療・ケアについて考え、学ぶ機会の提供などにも取り組みます。</p>	2	②
13	<p>地元の幼稚園などと合同でイベントなどを開催する。</p>	<p>高齢者の生きがいや社会参加の視点として、子どもなど、多世代との交流は重要であると考えています。</p>	2	①
14	<p>待機児童と高齢者が一堂に会せる施設を作ってはどうか。子供の世話をすることで認知症を予防し、保育所にとって代わる場にならないでしょうか。最低限の管理人員は必要になりそうですが。</p>	<p>「いきがい活動ステーション」では、選任コンシェルジュが活動とのマッチングやサポートを行っており、高齢者の意欲や能力に応じたボランティアや地域貢献、福祉活動等の情報提供や、活動との効果的なコーディネートに取り組むこととしています。また、多世代交流を含め、高齢期における生き方の参考としていただくため、地域での活動事例の把握に努め、国の表章制度を活用した紹介も行っています。</p>	2	①
15	<p>高齢者と地域住民、子供との密着による地域活性化は防犯予防にもなる。</p>	<p>「いきがい活動ステーション」では、選任コンシェルジュが活動とのマッチングやサポートを行っており、高齢者の意欲や能力に応じたボランティアや地域貢献、福祉活動等の情報提供や、活動との効果的なコーディネートに取り組むこととしています。また、多世代交流を含め、高齢期における生き方の参考としていただくため、地域での活動事例の把握に努め、国の表章制度を活用した紹介も行っています。</p>	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
16	北九州市は高齢者が多いとは感じておりますので、その方たちが暮らしやすくする必要がありますと思います。しかしながら、基本目標である「高齢者が主役になるまちづくり」というのは理解できません。高齢社会の対策の推進をしたいのであれば、子どもを増やす必要があるのではないのでしょうか。つまり、20代から50代までの子どもを産み育てる世代を主役にするべきだと私は思います。いえ、主役ではたまりません。スーパースターにするべきです。バブルを生き、今まで働き、主役のような立場だったのです。それがまた主役になるという。主役、長すぎやしませんか。	高齢化とともに人口減少の進展が見込まれている本市においては、今後、大きな人口規模での推移が見込まれる高齢者に、社会の担い手・支え手として活躍いただくことが都市の維持・発展に不可欠の要素だと考えています。 しかしながら、高齢者だけでは、都市を維持・発展させることはできません。本市では、「子ども」「若者」「子育て世代」など、各年代に向けた多様な取組も行っており、子育て環境でも全国的に高い評価を得ています。「高齢者が主役になる」とは「高齢者が中心になる」ということではなく、「年齢に関わらず、高齢になっても、意欲や能力を発揮できる」ということを表しているものです。	3	①
17	基本目標について、「高齢者が」主役になる、ということには違和感を覚えます。高齢者ではなく、「市民一人ひとりが」主役になる、というのはいかがでしょう。健康長寿は幼少期からの栄養、運動、睡眠、排泄等日常生活の過ごし方に関わってくるので、全市民が人生90年を意識して行動する必要があると考えるからです。	平均寿命が延伸する中、自分らしい暮らしを少しでも長く続けるためには、市民一人ひとりが自分自身の「長いシニアライフ(老後)」に対する備えをすることが必要です。このため、若い世代についても、「遠い老後」のことではなく、「今を積み重ねた自分の将来」として考えるための啓発が必要だと考えています。 本計画は、市の基本構想・基本計画に基づく分野別の計画として策定しており、主に高齢期を対象としていることから、「高齢者(期)」に焦点をあてた基本目標としていますが、「高齢者が主役になる」とは「高齢者が中心になる」ということではなく、「年齢に関わらず、高齢になっても、意欲や能力を発揮できる」ということを表しているものです。	3	②
18	「高齢者対策」というより「市民全体のため」という考えで取り組む。	本計画は、法定計画としては「老人福祉計画」と「介護保険事業計画」を包含したものであり、高齢者(期)を主たる対象としています。しかしながら、高齢者だけでは「高齢者が住みやすいまち」は維持できず、また、高齢者が住みやすいまちは、高齢者以外も住みやすいまちになります。このため、本計画の推進にあたっては、高齢者(期)だけでなく、より広い視野を持って取り組んでいきたいと考えています。	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
19	<p>今、話題の著書でもあるロンドン・ビジネススクール教授、グラットン/スコット著の「ライフ シフトー100年時代の人生戦略」(2016)の序文において、「2007年に日本で生まれた子供の半分は、107年以上生きると予想」されるという指摘がなされています。その他の巷の著書においても多くが100年時代を考えるとあり、これからの時代、私達は何事も「人生100年時代」を前提にして、学ぶ、働く、引退という3ステージから脱却しマルチステージを自分らしく幸せに生きていく新しい生き方の中での保健福祉も計画していくのがよいのではと思います。ぜひ、高齢社会先進都市北九州でも、90年時代という文言を100年時代と変更していただけないでしょうか。</p>	<p>生活環境の改善や医学の進歩などにより、平均寿命も延伸しており、本市の平均寿命についても、昭和45年と平成22年を比べると、男性は9.61年、女性は11.12年延伸しています。また、国においても、人生100年時代を見据えた経済・社会システムを実現するための政策のグランドデザインに係る検討を行うため、「人生100年時代構想会議」が設置されました。</p> <p>しかしながら、本計画の計画期間は3年間(平成30年度～平成32年度)であり、この期間で人生100年を展望するには、現在の平均寿命から考えると開きが大きいことから、自身のこととして捉えていただきやすいように、本計画では「人生90年」としています。自身の「シニアライフ(老後)」に対する備えは、平均寿命が何歳であるかにかかわらず、自分らしい暮らしを少しでも長く続けるためには必要であるため、現役世代を含め、啓発に取り組んでいきます。</p>	3	③
20	<p>明石市のような全面的に子どもが「将来にとっての宝」だとする施策がいいですね。 人口も増えてるそうですよ。明石市は。</p>	<p>本計画は、法定計画としては「老人福祉計画」と「介護保険事業計画」を包含したものであり、高齢者(期)を主たる対象としています。しかしながら、高齢者だけでは「高齢者が住みやすいまち」は維持できません。人口減少・高齢化は、本市固有の問題ではなく、我が国全体の傾向であり、今後、我が国あげて少子化のトレンドが変わったとしても、人口構造が変動するためには長い時間を要するとされています。このため、既に突入した超高齢社会を乗り越えるためには、人口規模の大きな層である高齢者に活躍いただくことが不可欠だと考えています。</p> <p>そこで、本計画では、高齢者を一律に「支えられる側」とするのではなく、様々な分野でできるだけ長く活躍できるよう取り組んでいくこととしています。</p>	2	③

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
21	<p>これからの日本のキーワードは「減築」。今、考えていかないと私たちの2～3代後のゼネレーションをどうにもならない状況に追い詰める事になる。建ち枯れが増加してきている地域(高度成長期の高層巨大団地等＝スラム化したら犯罪の巣窟)に対して減築をおこなう。減築をおこなったエリアに対して緑地・緑道を設け環境向上につなげる。やがて、地球規模の気候の変動により、日本は亜熱帯化していく。河川の水と緑道により吹き抜けていく風を冷やし年々ヒートアップする夏の日本の都市を冷やす役割をになってもらう。土地余り現象を活用し活断層の真上から生活ゾーンを都市計画で外す。活断層の上は緑地帯とし地震国日本を守る工夫をおこなう。地盤的に安定した地域にコンパクトシティを築いていく。食料品も、農業政策の抜本的な改革で100%にもどし資源に頼らない、技術立国を復活させる。</p>	<p>人口の急激な減少と高齢化を背景として、居住者の生活を支えるコンパクトなまちづくりを進めていく必要性が高まっていることから、平成26年の都市再生特別措置法の改正により、居住や都市機能を一定の区域に誘導する立地適正化計画が制度化されました。</p> <p>本市においても、人口減少と高齢化を重要な課題と認識し、平成15年に策定した北九州市都市計画マスタープランにおいてコンパクトシティを掲げ、「街なか居住」など都市計画の基本的な方針を明確にし諸施策を総合的に展開しています。さらに、人口減少下においても、地域の活力を維持増進し都市を持続可能なものとするため、北九州市立地適正化計画を策定し、商業・医療・福祉施設等や住居等がまとまって立地し、高齢者をはじめとする住民が公共交通によりこれらの生活利便施設等にアクセスできるなど、福祉や交通なども含めて都市全体の構造を見直し、コンパクトなまちづくりを進めていくこととしています。</p> <p>なお、上記のエリアについては、土砂災害等の危険性のあるエリアを除いて設定しています。</p> <p>また、農業政策については、北九州市農林水産業振興計画に沿って施策を展開する事で、安定した食料供給を確保していきます。</p>	2	①
22	<p>世界の人口推移は、実は凄まじい勢いで増える。現在、70億人が2050年には90億人を上まわる。これからはアジア(日本を除く、中国・インド)の時代だ。その時の日本のイメージは北欧のような人口は少ないが、豊かな福祉国家となるようにしたい。ぜひ！ステキなプレゼントを未来に残したい。東北復興都市計画と共に、長期に渡った日本国土全体への用意周到な有機的な政策が必要である。</p>	<p>本計画期間は、①高齢者人口の転換期にあたるとともに、②人口減少や地域のつながり、家族の世帯構成などの変化等により、高齢者等の「自助」「互助」の意識をさらに醸成する重要な期間だと考えています。高齢者が、社会や経済の担い手・支え手として活躍の幅を広げていくことで、様々な制度や仕組みの持続可能性が高まり、さらなる発展へとつながるきっかけにもなりうることから、本計画に沿って、年齢に関わらず活躍できる環境づくりに取り組んでいきます。</p>	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
23	自分が一番言いたいのは、年を取る、要介護状態になるのは悪いことではない。人間、誰も年を重ね体も衰えていく。一般的にそれがあたかも悪く、否定するように思えるが、それを徹底的に阻止しようと思わず、自分らしく生きていく権利はあるので、生存権を保障しながら市民が生きていくような政策も必要ではないかと思う。自律(自立ではない)した生活を保障することだと思う。経済的な問題はあがるが、それを補うのが国、自治体、そして介護職員たちの役目ではないだろうか。	「自立」が「自分の力だけで行動して生活すること」を表すのに対し、「自律」は「自分で決めた規則に従う」ということを表しています。本計画では、「自立した生活」を継続できるように介護予防に取り組むとともに、要介護状態等となっても、自分の意思で、自分らしく生活を営むことができるよう、身体機能の自立ということだけでなく、個人の意思の尊重やその人らしい暮らしを営むことができるような支援という視点ももって、自立支援に取り組むこととしています。	2	①
24	地域包括ケアは北九州市独自の政策が見えない。国の言いなりになっているようにしか思えない。	「地域包括ケアシステム」という枠組みは国において示されたものですが、「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる」ための仕組みづくりであり、地域によって課題やニーズも、地域資源も異なることから、できあがる仕組みもそれぞれに異なってくるものだと考えています。本市では、「いのちをつなぐネットワーク事業」など多様な主体による地域でのネットワークづくり、健康づくりや見守り活動など地域に根ざした活動が展開されており、「地域包括ケアシステム」の推進においては、このような、これまでに培われてきた地域の力がいかされてくるものと考えています。	2	①
25	大牟田市の高齢者の取り組みを参考にしてほしい。	計画の推進にあたっては、他都市の事例なども参考にしながら取り組んでいきたいと考えています。	2	③

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
26	人間はいつか必ず死ぬ。死亡率は100%ということ念頭に取組んでほしい。	生活環境の向上や医学の進歩などにより、平均寿命が延伸し、例えば65歳で定年退職を迎えたとしても、平均寿命(平成28年 男性:80.98年 女性:87.14年)まで約15~22年の期間があります。このため、自分自身が望む暮らしを少しでも長く続けられるよう、「誰もが住み慣れた場所で人生の最期まで過ごすこと」を実現するための仕組みである「地域包括ケアシステム」の構築に向けて、本計画を推進していきたいと考えています。また、本人や家族の適切な理解や主体的選択を支援する観点から、人生の最終段階の医療・ケアについて考え、学ぶ機会の提供にも取り組んでいきます。	2	①
27	北九州は良いところも、もちろんたくさんあるが、そのひとつとして、「食べ物がおいしいところ」「物価が安いところ」これを高齢者対策に活かす。健康を保つには口から食べることを維持すること。健康な歯を保つこと。それにより様々な疾患予防になる。物価が安いと欲しいものが手に入りやすく、趣味、好きなことに集中できる。⇒認知症予防	本市が実施した市民意識調査(平成29年度)によると、8割以上が「身近な地域に愛着を感じる」としています。「愛着を感じる理由」では、70歳以上は他の年齢層と比べ、「人情味あふれる人々」の割合が高い一方、「地元食材や食」とした割合は低くなっています。口腔衛生を保つことは、健康の維持、生活の質の向上に重要であり、また、社会的つながりが多い高齢者は認知症リスクが低減されとの研究結果もあります。このため、口腔ケアに対する啓発や、食や趣味を共に楽しむことができるような仲間づくりの支援に取り組めます。なお、地域では、食生活改善推進員が中心となって「ふれあい昼食交流会」を開催し、高齢者向けの献立による食事の提供や交流の場として、活動が展開されています。	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
28	<p>1. 男性は軽い仕事でいいから働き続けることで社会と向き合ったらどうでしょうか。退職で人生が終わるのではなく、生涯現役、ときめきを多く見つければ人生は豊かになります。自分の居場所が確保、生きがい実感。</p> <p>2. 健康寿命延伸、社会保障、後期高齢者増加、生産年齢人口の減少、今すぐ対応を始めないと手遅れです。運動、食事、禁煙の3分野徹底的に行う。</p> <p>3. 日本の医療制度は何の制限も受けずにどこの医療 診てもらえ治療が受けられる。国等の負担をおさえる為には、後期高齢者人口の増加・健康寿命の延伸を解決する急務がある。 高齢者の車の運転 公共交通の改善、休憩所増 改善 介護事業 給料アップ アジアからの参加(難しいペーパーテスト)廃止。</p> <p>4. 少子化克服 専業主婦から女性活躍の場へ 子育て支援</p>	<p>本計画は、本市の基本構想・基本計画の分野別の計画として位置づけられるものであり、計画の推進にあたっては、「北九州市健康づくり推進プラン」、「元気発進！子どもプラン」や、本市の地方創生を推進するための理念や取組を定めた「北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」など分野別計画と相互に連携を図っていきます。</p>	2	①
29	<p>保険料の値上げに対する関係者への意見募集について改善が必要です。北九州市ホームページを検索しないと介護保険料の改定内容を知ることができません。市政だよりには「北九州市いきいき長寿プラン(素案)」「意見募集」とだけ書かれており、計画の概要は掲載されていません。介護保険料の改定などを知ることすらできません。介護保険料は年金から自動的に引きさられます。一方、その保険料の値上げの検討が行われていることへの案内はされないで、結果だけを知らされ保険料は自動天引きされています。事前に検討の内容を知らせて意見を求める方法を検討すべきです。</p>	<p>本計画は、介護保険の各サービスの見込量やそれに対応した介護保険料について掲載する「介護保険事業計画(第7期)」を包含しているため、一体的にご意見を募集していますが、いただいたご意見については、今後の参考にさせていただきます。また、介護保険料を含め、引き続き、制度の広報・周知に努めていきます。</p>	2	③

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
目標と方向性				
目標①【健やか】いきいきと生活し、生涯活躍できる				
【施策の方向性1】生きがい・社会参加・地域貢献の推進				
30	ボランティアをしたい高齢者の支援をしているということ、家の中やその近くだけで暮らしている高齢者に知ってもらい取り組みが必要だと思います。「校区の作戦会議」に参加できない高齢者が、家や病院からでも要求を伝えることができたり、その様子を見ることができるといいと思います。	校区の「作戦会議」は、医療や介護の専門職や学生など、多様な住民や団体が連携するものです。このため、高齢者やその家族だけでなく、地域住民や事業者・NPO、学生など、その地域に関係する方々への周知・理解を深められるよう、取り組んでいきたいと考えています。より多くの主体が連携することで、校区の「作戦会議」への参加が難しい方についても、その生活支援ニーズを把握し、作戦会議とつながることは可能だと思います。また、例えば、社会福祉法人などが参加し、その施設で作戦会議を開催する場合などは、施設入所者の方も、会議の様子を見ることが可能であると考えられます。	2	①
31	基本目標の上段やP. 57に出てくる、地域支援コーディネーターについての記載がありますが、このコーディネーターの説明(選定の仕方、役割、等)があまりないようですので、具体的な記載がほしいと思いました。用語解説にも記載してほしいと思います。	高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくことを目的とし、地域において、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能(主に資源開発やネットワーク構築の機能)を果たす者を「地域支援コーディネーター(国では「生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)）」としています。ご意見を踏まえ、用語解説に追加します。	3	②
32	基本施策3に記載があります、人と人をつなげる、ことに賛同します。ただ、そこに若い人材の関わりや育成を強化すべきだと思います。私が教員をしている九州歯科大学では、学生とシニアの地域住民(周望学舎研修生)がコラボする実習をカリキュラムに組み込んでおり、相互理解に役立っていることを経験しています。こうしたコラボをさらに充実・発展させることができないでしょうか。	見守り・支え合いの仕組みづくりでは、地域社会の構成員として、就学・就労している地域での見守り・支え合いに参画するよう、啓発に取り組むこととしています。また、校区の「作戦会議」では学生の参加も想定しているところです。独立行政法人都市再生機構(UR都市機構)では、行政、自治会等の地域関係者に加え、大学とも連携した取組を実施していますが、このような、好事例を紹介するなどして、地域の取組を支援していきたいと考えています。	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
33	軽作業や時間に縛られないボランティアを産み出す事による、老人の元気と収入の支援(NPO法人を利用し、老人たちに必要な軽作業や時間に縛られないボランティアを産み出す事による、老人の元気と収入の支援を図りましょう。)	地域包括ケアシステム構築に向けた校区の「作戦会議」では、助け合いづくりとして、有償ボランティアによる生活援助も検討することとしています。 また、介護支援ボランティア事業は、65歳以上の方が市内の介護保険施設等でボランティア活動を行った場合にポイントを付与し、貯まったポイントを換金または寄付できるものです。 さらに、シルバー人材センターでは、除草や剪定といった「臨時・短期的な仕事」や「ボランティア」に加え、本格的に企業への派遣業務の取組が始まり、事務や販売といった職種にも会員が受け入れられるようになりました。 今後も引き続き、高齢者がいきいきと活動できる環境づくりに取り組んでいきます。	2	①
34	現役世代の生産人口減少で、あらゆる産業で労働力不足が生じている。2020年には、416万人が不足との試算もある。本市の高齢化率は、他都市より速く進んでいる。65才以上の人口が今後増えていく中、日本人の健康寿命は延びており、65才過ぎても働いている人も多い。高齢者の独居率が、今後上昇する見通しの中、介護、医療現場での労働力不足を補うために、元気な高齢者の活用は喫緊の課題である。65才定年制度や長年の慣行等を見直して欲しい。これまでの発想を転換し、元気な高齢者、女性、外国人労働者など多様な人材が活躍できるしくみを、本市が他市に先駆けて構築して欲しい。	生産年齢人口の減少が続く中、人口規模の大きな高齢者が、社会や経済の担い手・支え手として活躍の幅を広げていくことは、既に突入した超高齢社会を乗り越えるためには不可欠だと考えています。このため、本計画では、高齢者が豊かな知識や経験をいかせる多様な働き方を選択できるよう、企業に対する働きかけなど、高齢者の就労環境整備に取り組むこととしています。 また、本市の基本構想・基本計画の分野別計画として、本市の地方創生を推進するための理念や取組を定めた「北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、中高年齢者が地元でいきいきと働き続けられるための支援や女性の活躍日本一を目指した女性活躍施策の充実などの取組を推進しています。	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
35	<p>リンダ・グラットン教授が説いたように2007年生まれの日本人の平均寿命は107歳。107歳まで健康で自律した生活が営めるように、幼稚園・小学校・中学校・高校教育の中で、健康教室を導入することが必要です。保健体育の授業の中で教育はされているとは思いますが、北九州市の特徴を生かしたものを考える必要もあると思います。</p> <p>職場の安全衛生教育でも健康を維持するための健康教室を実施することを努力義務化することは可能でしょうか。企業に対してWLB賞表彰のような表彰も効果があるのかもしれませんが。そのような職場は持続可能性な企業だと考えられます。</p>	<p>本市小・中学校では、健康教育の3つの柱(「学校保健」、「学校安全」、「食育・学校給食」とともに、体育(保健領域)、特別活動(学級活動)、総合的な学習の時間等において、健康・安全に留意した生活を送るための実践力の向上を目指し、指導しています。中でも、「学校保健」においては、学習指導要領に則り、薬物乱用防止や性に関する指導、生活習慣病、新たな感染症等の諸問題など、当面する問題解決に向けた実践的な能力や態度の育成を図っています。具体的には、各学校の実情に応じて、学級担任や教科担任による指導だけでなく、養護教諭やゲストティーチャー等の専門性をいかすなど、指導の充実や工夫改善に努めています。</p> <p>このほか、学習指導要領の改訂(平成33年度 中学校全面実施)にあたり、中学校では、「生活習慣病などの予防」の内容の中に、新たに「がんの予防」が追加されます。今後も、健康教育の実施にあたり、内容に応じて、地域の人的資源を活用したり、関係機関との連携を図るなど、教育活動の充実に努めてまいります。</p> <p>なお、労働安全衛生法では、事業者は、労働者に対する健康教育及び健康相談その他労働者の健康の保持増進を図るため必要な措置を継続的かつ計画的に講ずるよう努めなければならないと定められています。</p> <p>また、市内企業や地域の活動団体が行う、従業員やその家族、地域住民の健康増進につながる取組の中から、先進的・効果的な取組を選考し、「北九州市健康づくり活動表彰」として表彰をしています。</p> <p>引き続き、健康寿命の延伸に向けて取り組んでまいります。</p>	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
36	<p>健康寿命を延ばすために、日常生活の中で、質の良い運動、栄養、睡眠等の確保、認知機能を維持するための活動、社会活動への参加等が必要になってきます。そのために現在も特定検診や健康マイレージなどの対策を採っており、徐々にその利用者は増えている状況であることは提供された資料で理解できました。このプランでは利用していない人に現状を知らせ、どうやって参加させるか、参加しているにもかかわらずデータが改善しない人をどのようにして支援するかが問題です。</p> <p>市民、特に一人暮らしの高齢者は市の取り組みをどのように知るのでしょうか。市政だより、回覧版、北九州市の広報テレビ番組やラジオでしょうか。視力や聴力が低下している高齢者が理解しやすい方法を検討する必要があります。参加しようと思った時に手を引いてくれる人も必要です。組長もしくは元気な高齢者にそのような役割を依頼することも良いのかもしれません。町内会等で声をかけ合うことも一つの方法だと考えます。日頃から声を掛け合う町内会活動が活性化する支援も大切です。</p>	<p>市民に取組などを広く知っていただくため(情報の伝達)、知っていただきたい情報を、届けたい対象に応じた、より効果的な手段を検討しながら、学校、職場、地域など個人を取り巻く多様な主体と連携・協働し、様々な手段で情報発信を行っていきます。</p> <p>また、老人クラブでは、声かけ活動、一人暮らし高齢者の誘い出し・訪問活動といった友愛活動に加え、健康教室の開催といった健康増進活動も行っています。本市では、地域の仲間づくりを行う老人クラブ活動促進のための支援や、市自治会総連合会と連携しながら、自治会・町内会活動の活性化に向けての意見交換を行うほか、高齢者の見守りや地域での支え合いにつながる活動を支援しています。</p> <p>なお、健康づくりについては、市の基本構想・基本計画に基づく分野別計画として「北九州市健康づくり推進プラン」を策定しています。当計画では、すべての世代が地域のつながりの中で健やかで心豊かな生活ができる活力ある社会の実現を目指して取組を進めています。</p>	2	①
37	<p>北九州市社会福祉協議会や専門機関との連携:地域支援コーディネーターの方々やいきがい活動ステーションなど専門機関のスタッフの方々には、「(関心はあるが)まだ活動していない人」と出会う機会を、各地区で行なわれている活動と連携して検討していただきたい。地域の「支えあい」に参加してくれる方たちが増えていくことが、現在の民生委員、福祉協力員の方々の支援にも通じていく。</p>	<p>本計画では、年齢を基準として一律に「見守る側」「見守られる側」に分けるのではなく、誰もが地域の一員としての意識をもち、多方面につながりを作り、できる範囲で支え合う仕組みづくりを推進していくこととしています。例えば、日中自宅にいる高齢者は自宅付近を登下校する児童の見守りをしたり、仕事で配達中に地域の高齢者に気を配ったり、意識することで見守る側になりえます。「何も手伝えないから最初から関わらない」のではなく、見守り・支え合いの当事者として、「なにげなく気にかけている」という意識をもってもらえるよう取り組みます。</p> <p>また、地域のボランティア活動の担い手を掘り起こす仕組みづくりに取り組むこととしています。</p>	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
38	<p>地域で高齢者を支え合い、見守って行くことをうたっていますが、地域も代が変わり、若い人材が帰って来ない現状があります。高齢者と子どものふれあいの場を作って行く必要あり。ひとりぐらしの方が多く見守りも必要だが、介護保険、対象外の方以外予防施設も必要であり、仲間作り、外出のすすめにもなり、今後重要ではないか。</p> <p>また、校区の市民センターについても、地域の相談窓口として、人員を増して、活動の幅を広くして、地域等のひとりぐらしの方への援助がこまやかになるのでは。今後、ひとりぐらしの方は、多くなって行くと思います。いこいの場が必要です。</p>	<p>校区の「作戦会議」では、校(地)区社会福祉協議会を核として、多様な住民や団体が、それぞれの得意分野をいかした連携による生活支援の仕組みづくりに取り組みます。作戦会議では、通いの場づくりやご近所さんによる助け合いづくりなどの実践まで行える仕組みを考えます。また、地域のボランティア活動の担い手を掘り起こす仕組みづくりに取り組むこととしています。</p> <p>なお、地域包括支援センターでは、各市民センター等を巡回する高齢者いきいき相談を実施しています。</p>	2	①
【施策の方向性2】 主体的な健康づくり・介護予防の促進による健康寿命の延伸				
39	<p>集団での行動だけが介護予防ではない。一人、個人で趣味に没頭することでも充分介護予防になる。</p>	<p>介護予防については、主体的に取り組むことが重要であり、個人で趣味に没頭することも、介護予防の効果は期待できると考えます。一方で、活動を継続するためには、共に取り組む仲間がいることやお互いの活動を支え合うことも重要であると考えています。このため、本計画においては、自身の生きがいを探すことや特技・趣味をいかして社会とつながることを支援するとともに、身近な地域で取り組みやすく継続しやすい仕組みづくりに取り組むこととしています。</p>	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
40	<p>デイサービスを1か月に1回程度オープン日を設けて、近所の方々と一緒に脳トレや体操を行うというアイデアを提案する。懐かしい歌に合わせて体を動かすリズムミックサイズ(造語)を行って楽しく過ごして、そのあとにしばらくお茶をする程度の出会いが新鮮でやや緊張する脳づくりをするのではないかと期待している。高齢社会が重くのしかかるのではなく、人間本来の人と人とのおしゃべりが楽しくいきがいになるような社会づくりができればと思っている。</p>	<p>地域包括ケアシステムの構築に向けた校区の「作戦会議」では、多様な住民や団体が協働・連携して、生きがい・健康づくり、交流の場となる「通いの場づくり」にも取り組むこととしています。</p> <p>なお、平成28年改正社会福祉法において、社会福祉法人の公益性・非営利性を踏まえ、法人の本旨から導かれる本来の役割を明確化するため、「地域における公益的な取組」の実施に関する責務規定が創設され、各法人が創意工夫をこらした多様な「地域における公益的な取組」を推進することが期待されています。</p> <p>本市では、地域(校(地)区社協)と社会福祉施設の更なる連携に向け、平成29年7月に公益社団法人北九州高齢者福祉事業協会と北九州市社会福祉協議会の連携協定が締結されました。</p>	2	①
41	<p>耕作放棄地や空き地を高齢者に開放し、開墾や園芸をすることによる健康サポート(耕作放棄地や空き地を高齢者に開放し、育てる楽しみ、収穫する楽しみ、料理する楽しみ、食べる楽しみ、人間力の向上による、高齢化社会の打破を目指しましょう。)</p>	<p>生産者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地や放置竹林の増加など、農林水産業を取り巻く環境が厳しさを増す中、本市では、今後の農林水産業の具体的な方向性を示す北九州市農林水産業振興計画に沿って施策を推進し、耕作放棄地の解消に努めています。</p> <p>また、未利用市有地や公園の一部(未利用地)を、自治会やまちづくり協議会、老人クラブ、子ども会などの地域団体に無償で貸し付け、花壇・菜園や植樹用の苗木の育成などに活用してもらうことで、街なかの緑を増やし、高齢者の生きがいや健康づくり、多世代交流等を促進する「ふれあい花壇・菜園事業」に取り組んでいます。</p>	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
42	<p>「目標と主な施策」(素案・概要版の5, 6ページ)について、【健やか】いきいきと生活し、生涯活躍できる②主体的な健康づくり・介護予防の促進による健康寿命の延伸の主な施策として、「市民センターを拠点とした健康づくり事業の実施」が記載されていますが、これに加えて、「年長者研修大学校における健康づくり講座、穴生ドームにおけるニュースポーツを通じた健康づくり事業(出前体験等)の実施」を追加できないでしょうか。</p> <p>※年長者研修大学校は「生きがい、健康・ふれあい」を基本理念としており、また、穴生ドームは「高齢者をはじめ、市民の健康・体力づくり、世代間の相互交流等を図る施設として開設された施設です。</p>	<p>周望・穴生学舎では、生涯学習の拠点として、高齢者の学習ニーズに応えるとともに、高齢者が社会的な役割を担えるよう研修を通じて生涯現役型社会の環境づくりを推進し、ボランティア体験や地域活動者との交流などを通して地域活動リーダーを養成しています。また、高齢者が学んだ成果を、地域をはじめ社会参加活動に還元する取組を進めています。この中で、地域活動のリーダーとして活動する分野の1つとして「健康づくり」の講座も設けています。</p> <p>また、北九州穴生ドームは、市民の心身の健康づくりや世代間の相互交流等の拠点として設置された、全天候型のドーム式多目的グラウンドです。事業の一環として、ニュースポーツを通じた健康づくり事業(出前体験等)を行っています。</p> <p>ご意見を踏まえ、「主な施策」に追記いたします。</p>	3	②

目標②【支え合い】高齢者とその家族、地域がつながる

【施策の方向性1】見守り合い・支え合いの仕組みづくり

43	<p>図表5-2に記載がありますが、かかりつけ医等の3師会についての記載はありますが、栄養士(管理栄養士)や歯科衛生士の記載がないようです。看護師等も含めたこれら医療系専門職のコラボにより、高齢者、介護者ともに心身の健康がさらに維持・向上できると思います。当大学では豊前市・豊前歯科医師会等とコラボで進めている口腔ケア事業でも管理栄養士・歯科衛生士を入れることで口腔機能の向上はもちろん、生活機能の向上も期待できることが明らかになっています。</p>	<p>図表5-2は、地域における多様な主体が連携したネットワークのイメージ図ですが、実際の地域では、この図に例示している主体に限らず、さらに多様な主体に連携いただいています。栄養士や歯科衛生士をはじめ、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの専門職、生徒・学生等の学校関係者、宗教施設関係者など、地域ごとに多様な主体による連携が図られていますが、全ての主体を示すことは難しいことから、「イメージ図」では「医療」や「近隣の地域住民」等の包括的な表現とさせていただきます。</p>	3	①
----	---	--	---	---

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
44	寮や、看護師の管理人付きアパートによる、孤立した老人や貧困者の支援（食事を出してくれる寮や、健康面をチェックしてくれる看護師の管理人付アパートなどにより、健康や費用負担のサポートを実施することで介護保険の負担を下げるような施策を実施しましょう。）	社会的な孤立など対応困難な事案の増加が見込まれることから、本計画では、誰もが地域社会の構成員として見守り・支え合いに参画するような啓発に取り組み、必要な生活支援、介護などのサービスを活用しながら、安心して暮らせる環境づくりに取り組むこととしています。 具体的には、安否確認や生活相談サービスを提供する民間のサービス付き高齢者住宅などの供給を促進しています。また、市営住宅では、単身高齢者を訪問して安否確認などを行う「ふれあい巡回員制度」や、高齢者向け市営住宅（ふれあいむら市営住宅）では生活相談や安否確認を行う生活援助員を派遣しています。	2	①
45	老老介護を念頭に入れた介護計画を行うべき（本来は、介護職を若者にあつせんし、それで老人を支える事もあるといえます。しかし、介護保険料も支払えないような所得の人は多い。であれば老老介護をも視野に入れた助け合い社会を創る必要もあるのではないのでしょうか。）	今後、総人口の減少や世帯構成の変化が見込まれる中、「老老介護」だけでなく、在宅での生活を支えてくれる「家族」そのものがない状況が増えることも想定されることから、本計画においては、多様な主体が連携する校区の「作戦会議」により、全員参加と地域資源の組み合わせによる生活支援の仕組みづくりを進めていくこととしています。	2	①
46	北九州市いきいき長寿プランの「小地域とのきめこまかな連携」を期待します。 いきいき長寿・人生100年時代・素敵にエージング 1.小地域福祉の視点を共通認識とするチーム力の醸成 2.小地域福祉のネットワークの形成 3.小地域の包括ケアシステムの構築 4.小地域での居場所づくりと介護・予防対策	地域包括ケアシステムの構築に向けた校区の「作戦会議」は、校(地)区社会福祉協議会を核として、多様な住民や団体が連携し、生活支援の仕組みづくりを進めることとしています。 生活支援の仕組みとしては、例えば、生きがい・健康づくりの「通いの場づくり」や、ご近所さんによる訪問支援などの「助け合いづくり」、事業者・NPO等による生活支援サービスなどを想定しています。	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
【施策の方向性2】総合的な認知症対策の推進				
47	認知症サポーターの啓発は甘すぎる。もっと、少しは義務感を持たせて受講させるべき。特に、教師や警察、官公庁が率先して受講して運動しないと市民には意識が届かない。又、一昔前はレスパイトケア(家族介護者等の休息を目的とした取り組み)が重要視されていたが今は、家族介護者ももっと介護や認知症のことを勉強する必要がある時代⇒虐待防止につながる。	認知症に対する理解を広げるため、本計画では、市民10万人が認知症サポーターになることを目指しています。認知症サポーターの養成にあたっては、官公署を含め、企業等に対しては日常場面に応じた講座内容としたり、小・中学生、高校生・大学生を対象とした講座を実施したり、より多彩なサポーターの養成に取り組んでいます。誰もが認知症とともに生きることになる可能性があるとともに、誰もが介護者等として認知症に関わる可能性があることから、引き続き、認知症への理解を深めるための啓発に幅広く取り組んでいきたいと考えています。	2	①
48	「西小倉小学校における認知症サポーター養成講座」の「寸劇」を使った事例は、子供から高齢者に至るまで具体的にわかりやすく、養成講座の手法としてももっと広げてよいのではないか、と考えます。	認知症サポーターの養成にあたっては、日常場面に応じた内容や小学生向けの寸劇や紙芝居など、より多彩な手法で取り組んでいます。今後も好事例の手法も取り入れながら、サポーターの養成に取り組んでいきたいと考えています。	2	①
49	高齢者の自動車運転免許証更新制度について。高齢者の事故は対象者本人のみならず、家族まで巻き込まれてしまう問題です。地域の中や、職場などでも取り上げて頂きたいと思います。	高齢者の交通事故防止について、高齢運転者等を対象とした出前講演等の交通安全講習などを実施しています。また、交通安全運動期間中のイベントや街頭啓発では、高齢者を含めた様々な世代の市民へ、高齢者の交通事故防止を呼びかける取組を行っています。高齢者の自動車運転免許更新制度も含め、認知症の人やその家族が安心して暮らしていけるように、必要な情報を身近なところで入手できるよう、情報を入手しやすい環境づくりを進めたいと考えています。	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
50	<p>厚生労働省の新オレンジプランにおいても難聴が認知症の危険因子として挙げられているにもかかわらず、市のプランにおいては難聴に関する文言が記載されていないのは問題である。難聴が認知症を発症させる要因としては、聴覚的なコミュニケーション能力の低下が挙げられる。そのため、難聴高齢者に対して聴覚的なコミュニケーションの保障を行い、認知症対策に努めていただきたい。</p> <p>「高齢者サロン」や「認知症カフェ」、あるいはその他地域の高齢者が集まる会合や高齢者福祉サービス等において難聴高齢者の聴覚的なコミュニケーションを保障する体制を整備し、地域の難聴高齢者の受け入れを推進していただきたい。</p> <p>難聴高齢者を支援する知識と技術を持った専門家「聞こえのサポーター(仮称)」を配置したサロン「聞こえのサロン(仮称)」を地域に開設し、地域の難聴高齢者の受け入れを行うとともに、「聞こえのサポーター(仮称)」の養成に努めてほしい。2025年には、最低でも中学校単位で「聞こえのサロン(仮称)」が開設され、「聞こえのサポーター(仮称)」が配置されるようお願いしたい。</p>	<p>厚生労働省の新オレンジプランでは、認知症の危険因子として、加齢、遺伝性、高血圧、糖尿病、喫煙、頭部外傷、難聴等が挙げられ、防御因子には、運動、食事、余暇活動、社会的参加、認知訓練、活発な精神活動が挙げられています。このため、本市の認知症対策では、国のプランを踏まえ、生活習慣病の予防・改善や、運動、口腔機能の向上、栄養改善、社会交流、趣味活動など、個人の日常生活における取組を促進していくこととしています。</p> <p>また、認知症の方を含め様々な人が集い交流する場として、「高齢者サロン」や「認知症カフェ」などの居場所づくりも重要であり、地域支援コーディネーターによる参加しやすい環境づくりや、高齢者等を担い手とした見守り・支え合いの仕組みをつくるための校区の「作戦会議」の運営支援など、地域の互助活動の普及促進に取り組んでいきます。</p> <p>また、本市に在住する難聴・中途失聴などの聴覚障害のある人の社会参加に必要な知識や情報などを交換するために研修の場を設け、難聴者・中途失聴者の自主的な障害の克服と更生に努め、難聴者・中途失聴者の社会参加の促進を図ることを目的として、難聴者・中途失聴者生活支援講座を開催しています。</p> <p>難聴者・中途失聴者について理解し、地域や職場などで気軽に筆談等の支援ができる環境を作るとともに、要約筆記について初歩的な学習を行い、修了者を要約筆記者養成講座の受講に繋げることを目的として、筆談サポーターの養成事業を行っているところです。</p> <p>なお、「聞こえのサロン(仮称)」を地域に開設することは、人的・予算上の制約から現時点では困難ですが、今後ともこうした取組を継続的に実施し、いただいたご意見も参考にしながら、難聴者・中途失聴者の社会参加促進に努めてまいります。</p>	3	①

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
【施策の方向性3】 高齢者を支える家族への支援				
51	行政においては各区の保健福祉課の体制や包括支援センターの体制強化や支援力量の強化が重要だと考える。区役所に「基幹センター」を置くのはわかるが、地域包括支援センターの設置場所等は人口減や高齢化の著しい地域や「地域の福祉・介護力が弱い地域」など実情をふまえて検討すべきと考える。また、個別事例では処遇困難事例などの支援やネットワークづくりに地域包括支援センターの役割発揮が期待されると思う。北九州市は福岡市に比べて地域包括支援センターの設置数も少ないと感じている。こうした点の計画への反映をお願いしたい。	本市では24の地域包括支援センターを設置し、保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャー等の専門職を配置しています。地域の実情を踏まえ、第四次高齢者支援計画の計画期間において、職員25名を増員し、人員体制を強化するとともに、各市民センター等を巡回する高齢者いきいき相談の開始、あるいは外出が困難な高齢者など個別事例を取り上げ、介護やリハビリの専門職などの関係者が集まり、具体的な支援方法や地域での見守り体制を話し合う地域ケア会議の開催といった、きめ細かい対応に重点を置いて取り組んでいます。 本計画においては、地域包括支援センターの一層の周知を図るとともに、休日開催相談窓口との連携や、官民協働による相談体制の構築など、機能強化・相談体制の更なる充実に取り組んでいくこととしています。	3	①
目標③【安心】住みたい場所で安心して暮らせる				
【施策の方向性1】 身近な相談と地域支援体制の強化				
52	医療行為が必要であっても、一人暮らしであっても住み慣れた場所で自分らしく生活しながら最期を迎えることは可能です。訪問看護サービスや訪問介護サービス、訪問診療などを活用する方法を北九州市の広報番組や市政だより等を活用し市民に広く知ってもらえる工夫が必要です。 地域包括ケアセンターの知名度は上がってきているとありますが、まだ十分とは言えない状況ではないでしょうか。文章を読むことに抵抗を感じる人のためにもテレビで体験者の話を聞くことやどんな場合にどのようなサービスを受けながら生活をするか等のドラマを作成することや、パンフレットには介護手続の方法や介護サービスの内容などについてフローチャート形式で一目見たらわかるようにするなどの工夫が必要です。	本計画では、住み慣れた場所での生活を支える在宅医療の環境づくりを進めるため、在宅医療・介護連携支援センターを中心とした多職種・多機関連携の強化や、在宅医療・在宅介護の提供体制の構築に取り組んでいくこととしています。 また本市が実施した調査で、「介護や病気などで困ったときに相談できる人」について尋ねたところ、要支援・要介護認定をうけている在宅高齢者では、約6割が「介護・医療関係者」をあげています。本人や家族の適切な理解や主体的選択への支援、医療と介護が一体的に提供される必要性の点からも、在宅での療養生活において専門職が果たす役割が大きいことから、専門職への情報提供・啓発にも取り組んでいきます。 あわせて、住民の相談のしやすさを考慮した官民協働による相談体制の構築など、相談できる場所の拡充に取り組めます。	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
53	かかりつけ医を持ち、病状を管理してもらいながら、万が一のときは急性期病院に入院できるルートはできていることを広く市民に周知することも必要です。(病院には地域連携室などが設備されています) 介護が必要になってあわてるのではなく、日頃から先のことを考えて準備しておくことが大切だということを再認識できるようにプランになることを期待します。	平均寿命が延伸し、「人生90年時代」が現実味を帯びてくる中、一人ひとりが自分自身の「長いシニアライフ(老後)」に対する備えをすることが必要です。このため、これから高齢期を迎える40代・50代の現役世代に対する、高齢期に向けた備えについての啓発のほか、「人生の最期を過ごす場所」について広く市民の方に考えていただくため、人生の最終段階の医療・ケアについて考え、学ぶ機会の提供などに取り組みます。	2	①
【施策の方向性2】介護サービス等の充実				
54	年金は引き下げられている現状で、介護保険料を引き上げする事は納得できません。国や市の負担割合を増やし、自治体として、年金生活者の生活を守る政策を掲げるべきです。	介護保険制度は、介護を社会全体で支える「社会保険制度」で、利用者負担を除き、その費用の半分(50%)を「介護保険料(40～64歳の人:27%、65歳以上の人:23%)」で、もう半分(50%)を「公費(国:25%、都道府県:12.5%、市町村:12.5%)」でまかなうこととなっており、この負担割合は国により定められています。 このうち、65歳以上の人介護保険料は、市町村が3年毎にその期間の介護費用を推計し、その費用に上記の負担割合(23%)を適用して定めています。 そのため、現在のように高齢化が進展し、介護サービスを利用する人が増えると、それに伴って介護保険料も上昇する仕組みです。	3	③
55	今回の介護保険料値上げの件に心底困り果てます。介護保険に頼らない為、日々努力はしていますが、少ない年金二人暮らしに、この値上げは将来の不安を増すばかり。収入の一割近くがこれに当てられる等、恐ろしくなります。しかも、受ける時期になったとしても、制限が厳しくなるばかり、実質負担も多くなると思うと・・・何とか工夫出来ないのですか。どんな試算をし、どんな経過を辿ったのか、私達の生活を援けて下さい。お願いします。介護保険料値上げ反対！		3	③
56	介護保険料は値上げしないで下さい。国や市の負担を増やしてください。市民の生活を苦しめないで下さい。		3	③
57	市民の声を聞いて頂きたい。行政は誰の為にあるのかを、もう1度、考え直して下さい。		3	③

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
58	介護保険料は値上げしないで下さい。保険料を上げないで国や市の負担を増やすべきです。	このような状況の中、本市では、元気な高齢者を増やし、介護が必要な人を少しでも減らしていけるよう、高齢者の介護予防、生きがいづくりや社会参加などに向けた取組を行っており、一定の保険料抑制効果はあると考えていますが、ある程度の保険料の上昇は避けられない状況です。 市民のみなさまにはご負担をおかけしますが、今後とも様々な取組を進めていきたいと考えていますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。 なお、保険料の支払いが困難で一定の要件に該当する場合には、申請により負担を軽減する制度があります。 また、国に対しては、保険料の負担が大きくなるよう国の負担割合を上げることなどについて、要望を行っています。	3	③
59	介護保険料は値上げしないで下さい。年金は下げられ、介護保険料は上がる暮らしは大変。		3	③
60	私は後期高齢者です。いつ介護保険のお世話になるか分かりません。毎年保険料は上がります。又自己負担が二割になるといいます。もともと保険料をとっているのに、自己負担があるのはおかしいと思います。無料にすべきではないのでしょうか。		3	③
61	介護保険料の新たな引き上げには同意できません。長年勤労し、社会保険料を払い、自己の人生に積立て老後を迎えたと思っています。年金の引き下げの一方で、新たな負担を老人に行う市政の運営は全く同意出来ません。市の市民への努力を。		3	③
62	年金は下がる一方の上、介護保険料の大幅値上げは本当に困ります。保険給付を制限し、必要なサービスが受けられない実態も見聞きしています。このままでは、介護保険はまるで国家的詐欺になりかねないのではないですか。		3	③
63	今払っている介護保険料は高いと思っています。もう少し安くなりませんか。		3	③
64	公的年金が少なく、少し不動産所得あり。普通徴収で介護保険料納付書(明細)送られてきて、金額みて驚きました。国民保険も高いですし、正規社員も少なく年々介護保険あがっているようですので、生活にひびいてきます。もっと安くして欲しい。ヘルパーしているのですが、身体介護の方 介護保険65歳すぎて以降 支援が少なくなるのはおかしい。		3	③

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
65	介護保険料は値上げしないで下さい。私は78歳の一人暮らしの女性です。この年まで介護保険は一度も使っておりません。又市のボランティアで施設に行っております。介護保険を使っていない人達に対して、1割位の保険料の値下げをして下さっても良いのではないですか。国や市の負担を増やしてください。少ない年金で細々暮らしている、善良な庶民を苦しめないで下さい。値上げ反対です！		3	③
66	保険料の値上げに反対です。これ以上の負担は限界です。年金は上がらないのに保険料は上がるため、収入に対する負担感が高くなっています。この制度の必要性和国の負担割合の見直しが求められます。つまり国民全体で支えとした介護保険制度にするために、税金による負担割合を増やすことが必要です。		3	③
67	2018年度、介護保険料改訂案で保険料引き上げが計画されています。介護保険は要介護の認定が厳しく、保険料だけ取られて介護が受けられない人が多く「保険料掛け捨て」状態の人が少なくありません。安倍自公政権の軍事費拡大、大企業減税路線を中止させ、福祉予算を増やして介護の財源を確保するよう要請して、これ以上の値上げをやめさせてください。		3	③
68	社会保障は憲法に保障された国民の権利であり、国や自治体はその実行に責任を持つことになっています。地方自治体は住民の福祉の増進が任務です。地方で難しい時は、住民の声を堂々と国に伝え改善を求めてください。私は、「保険料の引き上げは絶対反対です」		3	③

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
69	介護保険がまた上がると聞いて驚いています。先日、国保料が年間5万も上がって支払いましたが、年収(年金のみ)の2割以上が医療・介護保険に取られます。今はまだあまり病気で困っていませんが、それでも月の医療費は6～7千円です(糖尿病、狭心症あり)。この先、介護にお金がかかる様になれば、と考えるとなんとか暮らしていけるだろうかと心配です。預金もありません。もっと国や市の負担を増やして減免してください。		3	③
70	2018～2020年度の介護保険料大幅引き上げを知りびっくり!!というか怒りさえ感じています。年金はドンドン下がるのに、介護保険料はドンドン上がり、生活の不安があります。今年は年女の72才になりますが今のところ介護保険の利用はありませんが、どうなるのかの不安です。利用しても負担はあり、ましてや要介護が要支援に下げられている現状。何の為の介護保険?と思います。年金から強制的に天引され、介護保険と名をかり全く税金と一緒に。強制的に天引、利用ができない、これは国家的詐欺と思います。高齢化から互助を正当化しますが、これこそ国の政策、社会保障で安心して年を重ねていける老後安心の国:地方自治にしてほしいと願ってやみません。介護保険料の大幅引き上げに反対です。		3	③
71	介護保険料の値上げは困ります!5年ほど前に腰椎骨折して入院いたしました。3ヶ月で介護保険の適用は切れ、腰が痛くてもヘルパーさんも来られずがまんしています。1人暮らしです。保険あって介護なしと思います。国家的サギですね。税金は人々の幸せの為に使うべきです。軍事などに使わず、長寿者が生き生きと生活できるために使ってください!		3	③

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
72	介護保険の改悪をしないでください。これ以上保険料が上がると生活が成り立たなくなります。それだけでなく消費税、市民税が生活を圧迫しています。知り合いの高齢者80代の方も保険料を払うばかりで何の支援も受けていません！その全体像をあきらかにして、国に上申してください！軍事費に使わず、社会保障にまわして！知り合いのホームヘルパーさんも過労働でたくたになっています。仕事を分けて人出を増やすのが市、国の責任ではないですか！		3	③
73	反対します。いつの間にかどんどん値上げとなっているのはひどい。高齢者の負担が増えるのも×。		3	③
74	私は年金生活者です。利用者ではありませんが、介護制度は必要であるし、この制度を維持するために保険料の負担があるのは当然だと思っています。しかし、現在の保険料は発足当時(2000年)月額(基準額)で約2900円であったものが、改定ごとに値上げされ、2015年からは5700円と2倍近くに跳ね上がっています。私にとっては、これは大変な負担で限界です。しかも、今回のプラン(案)の6100円～6500円(基準額)への値上げは多くの生活困難な市民、年金でぎりぎりの生活をしている市民には過酷なものになると思います。また、今後、滞納者を更に増やし、保険制度への信頼を弱め、否定する傾向が強まるのではないかと危惧します。適用条件と軽減額の見直しをすること、保険料の値上げをしないことを強く要望いたします。		3	③
75	年金は減るばかり、その上年金の中から国保や介護保険料も天引きされています。介護保険も払うばかりでその上値上げされたのでは生活出来ません。ぜったい値上げは反対です。		3	③

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
76	生き生き長寿プランの実行には介護保険料の値上げがっているのでは解せません。高齢の私たちの収入は、年金だけです。年金が実質的には引き下げられていく昨今、来年度から7～14%の介護保険料の引き上げはつらいです。介護保険は40歳以上の人掛金を払って維持する「共助」制度ですが、市民の健康と暮らしを守る責務の北九州市政の公的負担を増やしていただけることはできないのでしょうか？保険料も利用料も引き上げられていきます。重ねて言いますが、年金だけで生活している身にはつらいです。保険料の値上げは反対です！所得の低い人への減免制度をもっと充実してほしいです。		3	③
77	年金引き下げや社会保障費用の負担増が追い打ちをかける感があり、低所得層の高齢者にとってはこれ以上の介護保険料の負担は難しいと実感している。むしろ、市独自の介護保険料の減免制度など貧困高齢者への支援策を検討すべきである。		3	③
78	多くの方がご存知でない今回の保険料引き上げのこと。1. 保険料引き上げないでほしい 2. 市の負担を増やしてほしい 3. 介護保険制度の改悪ばかりで困る		3	③
79	介護保険料について、年金は引き下げられるのに保険料の値上げは反対です。税金は社会保障に使うべきです。これ以上の高齢者への負担はやめて下さい。又、この計画はもっと市民にわかりやすく知らせるべきです。検討して下さい。		3	③

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
80	今年8月で83才になる私にとって介護保険は命の綱のようなものです。夫と二人で年金暮らしの中、これ以上保険料が上がれば本当に本当に困ります。利用料もどんどん上がってくることでしょう。おまけに利用したい時の査定や基準がどんどんきびしくなっています。高齢化社会に向けての特別な手だてが必要なのではないでしょうか。国の予算をもっとふやして地方自治体の運用や利用がスムーズにできることも大切だと存じます。市より国に対しても意見をあげて下さいますようお願いいたします。		3	③
81	年金生活者ですが、年金は毎年減額され物価は高くなり、加えて介護保険料は増加する一方で、生活が益々悪化しています。保険料値上げは生活破壊そのものです。国や市が負担を増やして、保険料は絶対に上げないで下さい。		3	③
82	外国人に対する生活保護を辞めて欲しい。(600億円以上) 外国人に支給するなら、障害年金を上げて、介護保険を下げてください。	生活保護法は、その対象をすべての国民としており、外国人は生活保護の対象とされていません。しかしながら、厚生労働省は、人道的な観点から、適法に日本に滞在し在留資格を有する外国人で生活に困窮する者に対して必要な保護を行うよう通知しています。本市では、この通知に沿った取り扱いをしています。 なお、介護保険制度は、介護を社会全体で支える「社会保険制度」で、その費用の半分(50%)を「介護保険料(40～64歳の人:27%、65歳以上の人:23%)」で、もう半分(50%)を「公費(国:25%、都道府県:12.5%、市町村:12.5%)」でまかなうことになっており、この負担割合は国により定められています。	3	③

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
83	介護保険料の値上げに反対します。機械的に値上げされたら、年金生活者は、たまったものではありません。「いきいき長寿プラン」で値上げを検討するのはおかしいのではないですか。そもそも、介護保険で家族の負担が軽くなって、生き生き長生きができる。と、制度ができたのではないですか。生活の財源である年金はこれも機械的に減額されています。平均的な市民(国民)の収入は低い人が多数を占めている状況でしょ。取れる人から取る。やりかたはいきづまります。介護保険には「公費が投入されていない」とききます。国民保険からわざわざきりはなして独立させて市民から収奪する制度だったんですね。税金の使い方は、放漫経営にみえます。今までのつけを、「市民に押し付けている」しか見えません。保険料はあがりますが、「介護サービス」は低下するばかりです。溜まった保険料を株投資につかっていることはありませんか。	介護保険制度の財源構成については、介護保険法で定められており、「保険料」が50%、国・県・市で負担する「公費(税金)」が50%で、社会全体で支える仕組みとなっています。なお、保険料の剰余分は、市の介護給付準備基金へ積み立て、次期介護保険料の上昇抑制に充てられます。	3	③
84	介護保険料が来年度7~14%も値上げする事に反対します。年金から有無を言わず天引きされ、年金は「自然増」分削減され、年々目減り状態。保険料の引き上げなど考えられません。許されません。値上げには絶対反対です。国や市の負担こそ増額すべきです。	介護保険財政の持続的かつ安定的な運営のため、全国市長会等を通じ、国費負担割合の引上げ等について要望しています。	3	③
85	低所得者からの介護保険料値上げ徴収は生活保護者を増やす可能性がある為原則反対します。	介護保険料の支払いが難しく、一定の要件に該当する場合、申請により保険料を減額する制度を実施しています。	3	③
86	利用料について、低所得者への減免制度を拡充すべきです。	低所得者に対する配慮として、一定の要件に該当する場合、申請により利用者の負担を軽減する様々な制度があります。このため、本市において、減免制度を拡充する考えはありませんが、様々な機会を通じて、負担軽減制度の周知・説明を行っていきます。	3	③

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
87	北九州市生活支援型訪問サービスや今後新設される生活援助サービスの従事者研修は、市が行う研修のほか、一定の条件の下で広く、事業所等でも行うことができるようなしくみを作ってはどうか。	介護サービスの安定的な供給には、介護サービスの新たな担い手の確保や人材の定着が重要になります。従事者研修の実施方法等につきましては、サービスの利用状況により、今後検討していきたいと考えています。	2	③
88	介護職員が不足するというが「不足する原因」を考えるよりも「増加する方法」を考える。介護職員のほとんどは「賃金アップ」と考える。最低でも月1万円以上のベースアップが必要。あと、人間関係の悪化で離職するのが現状。介護職員が通算10年以上勤務すると本人、その配偶者の老後を保障する(金銭・サービス等すべての面で)	近年、国は人材確保のため、処遇改善加算の増額改正を続けており、平成29年度にも賃金改善が行われました。さらに、平成31年10月の消費税増税の財源を活用し、介護福祉士を対象に更なる改善を図る政策が打ち出されています。また、本市では職場環境の改善を図るための経営者・管理者向けのセミナーの開催や、事業所の働きやすい職場づくりに有効な事例を表彰する事業を行い、人材定着に向け取り組んでいるところです。	2	①
89	介護職員の賃金アップ⇒介護職員増加⇒介護の質のアップ⇒高齢者のQOL(生活の質)アップ⇒自治体の質のアップにつながる	介護職員の賃金は、介護保険制度により介護報酬から支払われる仕組みとなっています。近年、国は人材確保のため、処遇改善加算の増額改正を続けており、平成29年度にも賃金改善が行われました。また、本市では、介護従事者向けに認知症に関することなど様々な研修を実施し、介護の質の向上にも取り組んでいるところです。	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
90	<p>昨年12月8日に政府が閣議決定した「新しい経済政策パッケージ」の内、介護人材の処遇改善では、勤続10年以上の介護福祉士に19年10月から月平均8万円相当の処遇改善を行うとしました。介護福祉士会会員の間では、これまでの処遇改善の経過から、「信じていけない。」「素直に喜べない。」等の声が沢山出ています。実際に介護保険事業所から、手当や加算金が出たのはほんの一部の事業所で、殆んどはうやむやにされていました。今回は是非全ての有資格者に適用されるよう、介護保険事業所に対してしっかりとしたチェック体制を、今から構築して頂きたいと思います。何故なら、介護職の人材不足対策の中で、賃金の件は大切であり、2025年問題にも繋がるからです。</p>	<p>処遇改善加算については、事業所に対して、賃金改善の内容や方法について介護職員に丁寧に周知を図るよう指導するとともに、市への提出書類の精査や集団指導・実地指導においても適切に対応を図っていきます。</p>	2	①
91	<p>介護の仕事が「きつい・汚い・きけん」というイメージを払拭させる。介護は誇りを持てる仕事。それには実際に介護現場で働いてみないと絶対に分からない。</p>	<p>実際に働いている介護職員が講師となり、仕事内容ややりがいを小中高校生等に伝える出前授業を実施しており、介護の仕事の理解やイメージアップ、就労意欲の育成に取り組んでいるところです。</p>	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
92	<p>介護予防に重点を置くと重度の高齢者が置き去りにされていくのは目に見えているのでバランスの取れた対策を考える。特に入所施設の介護職員は低賃金に加え、ゴールデンウィーク・お盆・年末年始も関係なく1年365日24時間フル稼働の職場で動いているのを絶対に忘れないでほしい。又、職員の健康管理にも頭に入れてほしい。職員の健康なくして高齢者のQOL向上はありえない。又、入所施設の利用者たちは高収入ばかりで普通の年金暮らしの人は、まず施設入所は困難である。(経済的理由で退所する人もいる)</p>	<p>介護職員の賃金については、近年、処遇改善加算の改正が行われ、賃金改善への取組を進めています。また本市では、職場の環境改善を図るため、経営者・管理者向けセミナーの開催や事業所独自の働きやすい職場づくりを表彰する事業を実施しているところです。</p> <p>職員の健康管理については、施設に対する実地指導等の際に、健康診断の実施状況などを確認しています。その他、介護職員向けの認知症介護など様々な研修を実施し、介護の質の向上にも取り組んでいます。</p> <p>経済的理由がある方の施設入所の件ですが、特別養護老人ホーム等の介護保険施設については、食費・居住費を軽減できる制度を活用することが可能です。具体的な相談は、区役所や地域包括支援センターで受けています。</p> <p>施設には様々な種類がありますが、次期計画においては、所得に応じて居住費や食費の軽減が受けられ、幅広い収入層の方々が入所可能な特別養護老人ホームを、一定数整備する予定としています。</p> <p>なお、地域の中で自分らしい暮らしを続けていく上で、一人ひとりにあった介護予防の取組はとても大切であり、その人の状態にあった、バランスの取れた取組が行われるよう、引き続き普及啓発に努めていきます。</p>	2	①
93	<p>独居・在宅ケアの介護職員の処遇改善も必要。</p>	<p>近年、国は人材確保のため、処遇改善加算の増額改正を続けており、平成29年度にも賃金改善が行われました。在宅サービスの介護職員についても同様に行われているところです。</p>	2	①
94	<p>「身体拘束ゼロ運動」という風に思い切った政策を出さないと事業所や職員の意識改革はできない。</p>	<p>福岡県では、福岡県身体拘束ゼロ作成推進会議を設置し、県内の事業所に対し、身体拘束の廃止を目指す「福岡県身体拘束ゼロ宣言」への参加を呼び掛けています。本市でも、身体拘束廃止・高齢者虐待防止に向け、集団指導等を通じて取り組んでいるところです。</p>	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
95	北九州市として、介護施設運営する事業者に対する支援を検討すべきです。例えば介護事業者のレベルを上げるために資格取得や事務作業の軽減化などへの支援、保険給付費に影響しないところでの対策の検討が求められます。	本市では、介護事業所を支援するため、経営者・管理者向けに事業所の経営や労働環境の改善に係るセミナーを開催しています。また、平成29年度から、介護事業所の職員育成のための研修支援や職員の負担軽減などの人材定着に向けた有効な取組を募集・表彰し、他事業所にも広く周知する表彰事業を開始し、介護職員の職場環境改善を支援しているところです。	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
96	<p>特養については「従来型」、「ユニット個室」など実態と内容をふくめて計画すべきだと考える。「従来型(多床室、個室の施設もある(他自治体))」の費用負担は比較的軽く、低所得層や生活保護利用者の利用が可能である。こうした低所得層のニーズの側面からも支援策を検討、計画すべきである。また、低所得層を対象にした軽費老人ホーム(ケアハウス)や「ケアハウス+特定施設(介護保険)」のミックスの施設整備目標・計画を含めるべきである。市において直近10年間でこうした施設は増えていない。</p> <p>さらに、「家賃補助付き」の高齢者住宅や市営住宅にバリアフリー、LSA(ライフ・サポート・アドマイザー)制度などの見守り・相談機能を加えた高齢者住宅の整備目標・計画が必要だと指摘したい。</p>	<p>ご指摘のとおり、特別養護老人ホームの入所費用については、従来型の方がユニット型よりも低料金となります。</p> <p>整備については、全国的にユニット型での整備が推進されていますが、本市では費用面にも着目し、これまでの整備においては、増床の場合には多床室での整備を認めることとしています。次期計画での整備についても、この視点を踏まえながら進めていきます。</p> <p>軽費老人ホームやケアハウスについては、平成23年度から平成28年度の利用率は、軽費老人ホーム(定員400人)とケアハウス(定員720人)はともに利用率は96%前後で大きな変動はないため、新たな整備は行わないこととしました。さらに、特定施設に関しては、平成23年度から平成28年度にかけて、990床分の新設や増床を行い、比較的整備が進んでいるため、充足していると考えます。</p> <p>なお、次期計画については、今後の高齢者人口や要介護認定者数の状況、既存施設の整備等の状況、待機者の状況、在宅サービスや軽費老人ホーム、ケアハウス、有料老人ホームなどの状況を加味することにより、整備量を設定しました。</p> <p>市民ニーズや今後の高齢化の状況等を考慮すると必要最小限の整備が必要と考え、費用面でも幅広い収入層の方々が入所可能な特別養護老人ホームを、一定数整備する予定としています。</p> <p>また、現在策定中の「北九州市高齢者居住安定確保計画(第2期)」に基づき、住宅施策と福祉施策が連携して高齢者の住まいや居住支援の確保に関する施策を展開してまいります。当計画の中では、国が定める目標値を踏まえ、本市における高齢者の住まいの量や質に関する目標値を設定しています。</p>	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
97	「介護ロボット特区」になっているが、はっきり言って時間・お金・労力の無駄にしかならない。国の言いなりになっているようにしか思えない。安川電機の影響、また市内の介護施設で現在どれだけ介護ロボットを導入しているか？ほとんど聞かない(コストの問題、職員の意識が低い⇒必要ないと思っている)その分を介護人材にかけてほしい。	本市では、国が実施する国家戦略特区を活用して、AI(人工知能)やICT(情報通信技術)なども含めた介護ロボット等を介護現場へ導入する実証を行っています。 この取組を通して、介護職員の身体的、精神的負担の軽減や介護現場の生産性の向上、さらには介護職員の働きがいや専門性を高めることで、介護現場の人材確保につながるよう努めています。 そのためには、現場のニーズに合ったロボット、介護ロボット等を導入するための財源確保、また、導入したロボット等を有効に活用できる人材の育成などが必要と考えています。 現在、導入実証事業をとおして、現場の方々からの意見を伺うとともに、介護職員の皆さんを対象とした「介護ロボットマスター育成講習」を実施し、介護ロボットを現場で使いこなせる人材の育成も図っています。 また、本市の事業成果を基に、国に対して介護保険制度に関する提案をすることも検討しているところです。 本事業により介護職員の心身の負担を軽減し、介護人材の確保に努めることで介護サービスの質を将来にわたり維持できるよう、事業を進めてまいります。	2	③

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
98	「介護」と「教育」をつなげる⇒中学・高校で「介護・福祉」の科目を導入する。生徒の親・教師たちは口をそろえて「介護の仕事はやめとけ」と言っている現状を払拭する。又、生徒はもちろん教師・行政も介護の現場に入ること。行政は異動が多く、介護や福祉の仕事の苦しさを知り、勉強が必要。今、介護職員がいないと全国はもとより、北九州市は超スピードで疲弊していく。教育委員会・教育関係者もこうした高齢社会対策に本気で取り組むこと。	本市では、実際に働いている介護職員を講師に、仕事内容ややりがいを小中高校生等に伝える出前授業を実施しており、介護の仕事の理解やイメージアップ、就労意欲の育成に取り組んでいます。また、福祉人材バンクの運営や経営者・管理者向けのセミナーを開催するなど、介護人材の確保や定着に向けた支援に取り組んでいるところです。 さらに、現在、児童生徒の発達の段階及び地域や学校の実態を踏まえ、「総合的な学習の時間」や学校行事等で ・地域独居老人宅訪問による交流 ・高齢者に年賀状を送る取組 ・老人福祉施設での介護体験学習 ・認知症サポーター要請講座の受講等の体験的な活動を行っています。 今後も、学校の教育活動全体を通じて、生命を尊重し、他人を思いやる心や奉仕する精神をはぐくみ、高齢者や障害のある人をはじめ、誰もが安心して生活できる福祉社会の担い手として、共に生きようとする実践的な態度を育成してまいります。	2	①
99	北九州大の学生にもっと高齢者対策・介護実習・介護科目を導入する。地域創生学部の意味がないし、曖昧な運動しかしてないように思える。(自分も北九大OB、介護現場職員の立場として)	北九州市立大学地域創生学群は、地域社会をマネジメントし、地域の再生と創造に貢献できる人材の養成を理念としています。カリキュラムには、地域の総合的把握・理解を目指す上で核となる「専門基幹科目」のほか現場実習もあり、まちづくり団体や福祉施設、スポーツイベントなど実際の現場で、実社会で求められる課題発見・企画立案能力、プロジェクトを進めていく力を養っています。実習では、地域を活性化するプロジェクトや子ども食堂の運営支援、高齢化した団地の自治会支援、高齢者の健康づくりなど様々な活動に取り組んでいます。本学群では、介護を担う人材のみではなく、地域社会の様々な分野で指導的役割を担える人材の養成を目指しており、この目的に沿ったカリキュラムを設定しています。	2	③

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
100	100ページ(2)日常生活圏域ごとの概況、被保険者数の小倉南区合計は43,344ではなく58,128です。小倉南1の14,784を足し忘れていているようです。	資料に誤りがあったため、計画書作成の際に修正いたします。ご指摘、ありがとうございます。	3	②
101	100ページ(2)日常生活圏域ごとの概況、要介護認定者数および認定者率に関する疑問です。3年前の同じ資料と比べて、軽度(要支援1・2、要介護1)の人数が極端に減少しています(それに比べ、中・重度はそれ程増加していません)。それに伴い要介護認定者数も減少し、3年前21.5%の認定者率もガクッと落ちて18.3%です。認定調査が厳格に行われるようになったのかとも思いましたが、92ページの要支援・要介護認定者の見込みでは平成27年～29年の認定率22～23%ですから、このギャップが理解できません。今回の「要介護認定者数」という表記が3年前の資料では「認定者数」でしたから、要支援1・2を含めていないのかなとも思いますが、であれば軽度+中度+重度が要介護認定者数になるのもおかしいですよ。いずれにしても、(2)日常生活圏域ごとの概況、要介護認定者数および認定者率の部分はちょっと分かりにくい印象を受けました。	資料に誤りがあったため、計画書作成の際に修正いたします。ご指摘、ありがとうございます。	3	②
102	図表5-3に記載がありますが、専門職による地域活動の項で、専門職の派遣や出前講演も重要と思いますが、これだけですと、受講者にとっては受け身になることも否めません。学生との接点を増やすことでお互いに学ぶモチベーションが上がると思います。現状では教育カリキュラム上、医学部や歯学部では地域住民との接点が少ない傾向にあると思いますので、今後はシニア大学校(生涯現役夢追塾、等)とのコラボ事業が強化できるよう、官学協同を進めてはいかがでしょうか。	国が実施した調査(平成25年度)によると、「若い世代との交流への参加意向」について、高齢者の約6割が「参加したい」としており、多世代との交流について高い意向があることがうかがえます。また、健康づくりや介護予防に主体的・継続的に取り組むためには、身近な場所で活動ができることと併せ、共に取り組む仲間がいることや、正しい情報の提供、適切な指導といった支援があることも重要です。このため、年長者研修大学校を含め、地域の「通いの場づくり」について、医学部や歯学部の学生も含め、生徒・学生等の若い世代との連携や参加の視点ももって取り組んでいきたいと考えています。	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
103	P. 105に「在宅医療・介護連携支援センター」を中心とした在宅医療と介護の連携強化、とありますが、具体的にはどのように進めるのでしょうか。もう少し具体的にわかりやすく記載して頂きたいと思います。	たとえ医療や介護が必要となっても、住み慣れた住まいでの生活を継続するためには、医療・介護の専門職が連携してサービスが一体的に提供されることが必要です。このため、在宅医療・介護連携の中核的役割を担う「在宅医療・介護連携支援センター」による、そうした専門職の活動を支援するための専門相談への対応や各種研修会の開催などを通じて、多職種・多機関の連携を推進するとともに、切れ目のない在宅医療・在宅介護の提供体制の構築に向けた取組を強化していくこととしています。なお、本計画本文では、方向性のみ記載しています。	3	③
104	医療と介護の連携を・・・と、国を挙げて言われていますが、そのサービス知らない高齢者が地域には、まだまだいらっしゃいます。本当の意味で「いきいき長寿」とうたうのであれば、医療と福祉のサービスのしくみや内容をもっと浸透させる必要があると思います。そのサービスを知らずに、治療も受けず困っている事がまんして、家で閉じこもりになっている方々にサービスを受けていただき、心身共に活性化して、元気に過ごしていただきたいと思います。その為にも、国で実施している家庭調査等を用いて、地域で活躍されておられる民生員の方々へ協力を依頼し、地域包括からサービスにつなげていければと思います。これは、現在もされておられるでしょうが、実際はサービスを理解していない方やサービスさえ知らない方々が、まだまだいらっしゃる事から浸透していない様に思います。	自分自身のことや家族のことで、実際に困りごとに直面したときに、適切な相談先に少しでも早くたどり着くことができるように、高齢者はもとより、子世代や企業の人事担当者なども含め、高齢者のための保健・医療・福祉・介護に関する「総合相談窓口」である「地域包括支援センター」の一層の周知に取り組みます。また、相談できるところを増やすため、休日開催相談窓口との連携や官民協働による相談体制の構築を進めます。また、一人ひとりが見守り・支え合いの当事者としての意識をもち、緩やかな見守りを通じて、必要に応じて専門機関につなげていけるような意識付けに取り組みます。	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
105	有償サービスとして「たすけあい」や「ふれあい」という介護・家事サービスを提供してきたNPO団体や、生活協同組合等で行われている支援の仕組みをピーアールして、20～50代の年齢層も積極的に「見守り」や「お使い」など簡単な家事支援に参加できるような新たな仕組みづくりに取り組みたい。また、20～50代で就学・就労せず自宅で過ごしている方たちの存在が、各地区で把握されていないことも多い。本人家族が近所に知られることを希望しない例も多いが、何らかの機会で繋がることで、地域活動その他に参加してもらいきっかけとなることもある(必要な支援が見えてくることもある)。	多様な住民や団体が、それぞれの得意なことをいかした連携により、生活支援の仕組みづくりを行う校区の「作戦会議」では、事業者・NPO等による生活支援サービスも検討することとしています。地域に住む誰もが、支援を必要とする方になりうると同時に、支援の担い手となりうるため、「作戦会議」への参加呼びかけなど、運営の支援を行います。行政内部においても、課題・ニーズに応じた包括的な支援が行えるよう、組織横断的な連携を図っていききたいと考えています。	2	①
106	障害者が60歳以上になった場合、介護保険適用が優先されるため、長年、障害者施設で生活している方が施設を利用できなくなり、退所せざるを得ない事例が複数発生している。また区によって判断が異なるため、適正な判断行えるようお願いしたい。	障害者支援施設に入所し、かつ生活介護を利用している65歳以上(40歳以上64歳未満の医療保険加入者含む)の障害のある人は、介護保険では被保険者とならないため、当面の間、介護保険が適用されません。但し、施設入所者が生活介護を利用していない場合には、介護保険の適用除外の対象とならないため、原則として、介護保険の適用が優先されることとなります。なお、これら介護保険との適用関係については、区の障害福祉サービス担当窓口に対する事務処理マニュアルにより、周知しています。	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
【施策の方向性3】権利擁護・虐待防止の充実・強化				
【施策の方向性4】安心して生活できる環境づくり				
107	今の北九州を見て、歩行者用の道路や点字ブロックの近くに自転車を置いていたりして、高齢者だけでなく、一般の人や障害のある方々の通行の邪魔になるし、なにより危険だと思います。また、北九州市では様々な取り組みをされているという事を知り、非常に素晴らしいことだと思うし、住みやすい地域作りがなされているので、住み心地などが良いと思いました。その中で、障害のある方や高齢者の方が利用するトイレで、普通の一般のトイレが空いているのにも関わらず、専用トイレを使っている人達を見受けられます。こうされては、障害のある方々などが利用できません。そこで規制をしっかりしたらもっと良いのではないかと思います。	本市では、道路上の放置自転車や迷惑駐輪は歩行者の通行の妨げになるだけでなく、都市の美観の悪化を招くことから、自転車放置禁止区域の指定や放置自転車の移動・撤去、迷惑駐輪に対する啓発活動などに取り組んでいます。 また、誰もが住み慣れた家庭や地域で安心して快適に生活できる「人にやさしいまち」を実現するため、年齢や障害の有無などの違いを理解し、尊重しあう「心のバリアフリー」を推進するための啓発や情報提供に取り組んでいます。 身体内部の障害など、外見からは分かりにくい障害もあり、多様な利用者がいることについて、互いに配慮しあうよう、今後とも、啓発や情報提供を進め、「人にやさしいまち」の実現を目指してまいります。	2	①
108	小さい事ですが、「色弱」をテーマにして、人の色の見え方の違いや、高齢者だとボケて見えたり黄色味がかかったりと、その見え方に対する違いの改善をしていくといいと思いました。ポスターや掲示板など町で目にする物を少しずつ変えていけたらいいなと感じました。ユニバーサルデザインが大事だと思います。	本市では、北九州市障害者支援計画に基づき、障害の有無にかかわらず、市民の誰もが、安心していきいきと暮らしていける共生社会の実現を目指しています。そのためには、市民一人一人が障害や障害のある人への理解を深めていくことも重要であると考えており、視覚障害をはじめ様々な障害の特性や求められる配慮などについても、引き続き、啓発活動を通じて理解促進を図っていきます。「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの考え方も含め、人々の多様な在り方を相互に認め合える共生社会の実現に向けて取り組んでいきます。	2	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
109	低額の貸出テントの整備(人は、様々な事情を抱えているため、低額の貸出テントを月1,000円程度で貸し出す等、多様な事情に合わせた配慮も必要ではないか、と思われま。貸し出す際に生活保護や支援のパンフレットをつけるなどの工夫も必要ですが。。)	本市では、生活保護に至る前の生活困窮者が困窮状態から早期に脱却することを支援するため、「生活困窮者自立支援法」に基づき、ご本人の状態に応じた包括的な相談支援等を実施しています。 また、北九州市内で、自立の意思がありながらホームレスになることを余儀なくされている方に対し、宿泊及び食事の提供、健康診断、生活相談・指導などを行い、自立の意欲を喚起させるとともに職業相談などを行うことによりホームレスの就労による自立を支援しています。	2	③
110	昨年北部九州豪雨の災害に見舞われましたが、北九州でも何時災害が来ないとも限りません。福岡県介護福祉士会では災害対策マニュアルを有しており、福岡県とも連携協定を結んでいます。北九州市とも連携協定を結べば、災害時に介護施設等での介護福祉士の派遣を行うことができます。日本介護福祉士会を通じて全国各地からの支援体制もあります。ご検討、宜しくお願い致します。	災害が発生した場合に福祉避難所等で支援を行う福祉等専門人材については、県が市町村からの要請に基づき、協定を締結している関係団体へ派遣依頼をすることとしています。当協定は、介護福祉士や言語聴覚士等8団体と締結をしており、ニーズに応じた専門職種の派遣に対応できるものと考えています。 災害時における対応については、北九州市地域防災計画全体との調整も図りながら、今後も、検討、見直しに努めていきます。	2	③
その他				
111	高齢者のためのプランばかりでなく、若者が興味をしめすようなイベントを増やすほうがよいと思う。	本市が若者を対象に実施した意識調査による、おしゃれをして出かける場所が欲しい、サブカルチャーを充実してほしいという要望を踏まえ、TOKYO GIRLS COLLECTIONやポップカルチャーフェスティバルなどを開催しています。今後も、交流人口の増大に向けて取り組んでいきたいと考えています。	4	①

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
112	<p>ミクニワールドは無駄な税金を使いすぎ。J3のチームになぜわざわざ100億以上のスタジアムが必要か？ギラヴァンツの中で選手自身も必要ないと言っている人がいる。又、年6,000万ものチームの維持費は一市民から見ればこの超高齢化の自治体の社会保障費にまわしてほしい。年に数試合しかないのにこんな税金の無駄遣いは誰が言い出したのか？</p>	<p>本市では、女性、若者の定着などにより社会動態をプラスにしていき、地方創生の成功モデルを目指すことを基本方針とした北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、オール北九州で地方創生を推進しています。新しい人の流れをつくるために、交流人口の増に向けて取り組んでおり、新幹線口エリアの集客拠点でもあるミクニワールドスタジアムは、オープニングの際には、まちぐるみでにぎわい創出による回遊性向上を目的とした多彩なイベントが展開されました。また、スポーツイベントを中心に、年間100日程度のスタジアム利用が見込まれていますが、この中には、スポーツを見るだけでなく、子ども達によるダンスや花火大会など市民が気軽に参加できるイベントも多数含まれています。ギラヴァンツ北九州への支援については、プロスポーツである以上は自らの力で経営を行うことが本来の姿と考えます。しかしながら、本市をホームタウンとするシンボルチームとして、市民・経済界・行政が一体となって支えていきたいという考えのもと支援を行っています。</p>	4	③

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
113	北九州市は50歳以上が住みたい都市No1なのになぜそれを徹底的に売りに出さないのか？またその政策もできないのか？	本市では、中高年齢者が希望に応じて地方や「まちなか」に移り住み、地域の住民(多世代)と交流しながら、健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる地域づくりを目指す「生涯活躍のまち」の取組を進めており、全国、また、東京圏からのアクティブシニアの移住を促進しています。全国初のシニア・ハローワークとして開設した「シニア・ハローワーク戸畑」は、概ね50歳以上の求職者への重点的な支援を行っています。また、新しい人の流れをつくるため、シニア・ハローワーク戸畑と同じ求人情報を北九州市東京事務所でも閲覧できるようにしています。その他にも、シニア・ハローワーク戸畑と連携した取組として、平成28年末からセカンドキャリア支援プロジェクトをスタートしており、首都圏企業の早期退職者など北九州市へ移住を希望する求職者と市内企業の潜在的人材ニーズのマッチングを図り、首都圏などからの人材還流と市内企業の成長促進を図っています。アクティブシニアの方々が長年培った技術、経験などをいかして地元でUターン、Iターンをしていただけるよう引き続き取り組んでまいります。これからも本市の住みやすさを積極的に情報発信していきます。	4	①
114	寧ろ、老人を積極的に受け入れる政策の検討も。(人口が減っている北九州市ですが、お金持ちの老人たちがたくさん入って介護を適切に受ける事が出来るような都市づくりを目指す事も検討してよいかと思えます。たとえば、預貯金や収入の調査をする制度(あるいは、供託金を市に預けるような制度)を創って、対象高齢者の市税を減免し、その代わりに医療スタッフ派遣サービスや介護職員の派遣等を市内の納税実績のある企業から雇用してもらおう・・・などです。これは国家間では、永住権制度で普通にされているのではないかと、思われます。)		2	①
115	こうした書類、意見を市に提出することで今後の自分の人生上の立場(就労等)が悪くなったりするのが不安だが、過去に自分の周りに似たような人がいたのを聞いたことがある。(就職・就労等) こうした北九州市の体制自体を変えないと高齢者対策はおろか教育・労働・経済も悪化していくのではないかと？	市民意見提出手続は、市が基本的な計画等を立案する過程において、あらかじめその案を広く市民に公表し、これに対して提出された意見を考慮して基本的な計画等の決定を行うとともに、提出された意見の概要とこれに対する考え方等を公表する手続です。意見の収集、分類、整理に当たっては、個人を特定できる内容をパソコン等によりデータ化しないようにするとともに、市民意見提出手続の実施後は、個人情報を確認かつ速やかに廃棄し、又は消去することとしており、意見提出をもとに、何らかの不利益を被ることはございません。	4	③

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン」素案に対する意見と市の考え方

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

【意見の反映結果】

- ①計画に掲載済、又は現在実施中・計画期間中に実施予定
- ②追加・修正あり
- ③追加・修正なし
- ④その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
116	高齢者対策の意見を考えていくと最終的に北九州市の様々な取り組みに対する課題が浮き彫りになって出てくる。(教育・労働、特に派遣社員問題、保育等)それ自体が課題ではないだろうか？	本計画は、本市の基本構想・基本計画である「『元気発進！北九州』プラン」の分野別計画として位置づけられるものです。したがって、本計画の推進にあたっては、他の分野別計画とも相互に連携を図っていきます。	4	①
117	とにかく役人の天下りを徹底的に廃止する。		4	④
118	“税金は大金物や所得の高い者から取る事”。社会保障制度をないがしろにすることは言語道断！	(仮称)北九州市いきいき長寿プラン(素案)について、具体的に関連する箇所が明確ではありませんが、ご意見として承ります。	4	④
119	“弱者”いじめはやめなさい。税金は支払い能力のある人から徴収してください。		4	④

「(仮称)北九州市いきいき長寿プラン(素案)」の修正箇所について

1 パブリックコメントによる修正箇所

修正 1

【意見の概要】(市民意見 5 ページ No. 11)

「高齢者の捉え方の意識改革」の中で、特に「高齢者自身の意識改革と行動の改革」が最も重要と考えています。P. 3 の「背景と課題」に示されているように、2025 年問題対策の如く、「とり巻く社会経済環境の変化」は「構造的変化」ともいべき大きな時代の変化であり、多くの人が部分的に認識しているか、ほとんど頭の中になく人が圧倒的に多いのが現状の最大問題点でしょう。ここを何とか皆んなで頑張っ、北九州方式を打ち立てていかねばならないと思われ、色んな変化が、どんな点においてどのような影響を及ぼす可能性があるのかを理解させる、色んなデータ・情報を提示することが大切だと考えています。

【修正内容】

「個人の備え」に関して、意識付けの啓発と併せて、学習する機会や情報の提供についての事業も掲載するもの。

最終案 84 ページ (素案 82 ページ)

○高齢化の進展に対する企業・地域へのPR

○「生涯学習活動促進事業」による学習機会・情報、学習成果をいかすことができる活動機会の提供

修正 2

【意見の概要】(市民意見 6 ページ No. 12 / 7 ページ No. 17)

- ・(「とり巻く社会経済環境の変化」について、色んな変化が、どんな点においてどのような影響を及ぼす可能性があるのか、色んなデータ・情報で)勉強したことを、自分自身は勿論、家族等も含めて、年とともに、どのような問題が発生し、どのような対応をしたらよいか、ケーススタディ(シミュレーション。例えば、楽観的ケース、悲観的ケースも交え行う)で、自分のやるべきことを様々な観点からくり返し行う。これによって、就業対策、健康対策、生きがい等に、如何に対応すればよいか、判断力がアップします。
- ・基本目標について、「高齢者が」主役になる、ということには違和感を覚えます。高齢者ではなく、「市民一人ひとりが」主役になる、というのはいかがでしょう。健康長寿は幼少期からの栄養、運動、睡眠、排泄等日常生活の過ごし方に関わってくるので、全市民が人生 90 年を意識して行動する必要があると考えるからです。

【修正内容】

人生の「備え」について、高齢になって生きている期間である「老後」だけでなく、「人生の最期=死(死後含む)」に向けての備え、いわゆる「終活」も含め、より広く捉えられるよう「人生設計」を追記するもの。

最終案 83 ページ (素案 81 ページ)

一人ひとりが「自分自身の老後」(人生設計)を考えた備えをすることが必要となります

修正 3

【意見の概要】(市民意見 13 ページ No. 31)

基本目標の上段や P. 57 に出てくる、地域支援コーディネーターについての記載がありますが、このコーディネーターの説明(選定の仕方、役割、等)があまりないようですので、具体的な記載がほしいと思いました。用語解説にも記載してほしいと思います。

【修正内容】

上記の意見を踏まえ、巻末「用語解説」に「地域支援コーディネーター」を追加。

最終案 137 ページ (素案 129 ページ)

地域支援コーディネーター

高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくことを目的とし、地域において、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能(主に資源開発やネットワーク構築の機能)を果たす者。

修正 4

【意見の概要】(市民意見 19 ページ No. 42)

「目標と主な施策」(素案・概要版の 5, 6 ページ)について、【健やか】いきいきと生活し、生涯活躍できる②主体的な健康づくり・介護予防の促進による健康寿命の延伸の主な施策として、「市民センターを拠点とした健康づくり事業の実施」が記載されていますが、これに加えて、「年長者研修大学校における健康づくり講座、穴生ドームにおけるニュースポーツを通じた健康づくり事業(出前体験等)の実施」を追加できないでしょうか。

※年長者研修大学校は「生きがい、健康・ふれあい」を基本理念としており、また、穴生ドームは「高齢者をはじめ、市民の健康・体力づくり、世代間の相互交流等を図る施設として開設された施設です。

【修正内容】

上記の意見を踏まえ、「目標①【施策の方向性 2】」に、「年長者研修大学校における生きがいづくり・仲間づくり、地域活動の担い手の育成」を追記。

最終案 58 ページ (素案 58 ページ)

[主な施策]

- 健康マイレージ事業による、自主的かつ積極的な健康づくりや介護予防活動への誘導
- 健康づくり推進員・食生活改善推進員・介護予防普及員など、健康づくりや介護予防のけん引役の養成や活動の支援

- 年長者研修大学校における生きがいつくり・仲間づくり、地域活動の担い手の育成（再掲）
- 地域のサロン等への運動・栄養・口腔の専門職派遣
- 各種健診の受診促進・保健指導の充実
- 老人クラブ活動（友愛訪問、シニア・スポーツ活動など）の促進（単位老人クラブへの助成、市・区老人クラブ連合会への助成、高齢者の健康づくり支援事業、年長者の生きがいと創造の事業）（再掲）
- 介護支援ボランティア事業による、健康増進や生きがいつくり

2 介護保険事業計画に係る修正箇所

修正1 第7期介護保険事業計画における事業費の見込み

（直近の事業実績・報酬改定等を反映し、最終的な推計を行ったため）

【修正内容】

最終案 111 ページ（素案 109 ページ）				
区分	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計
保険給付費	895億円	923億円	954億円	2,772億円
地域支援事業費	54億円	55億円	57億円	166億円
介護予防事業・日常生活支援総合事業	37億円	38億円	39億円	114億円
包括的支援・任意事業	17億円	17億円	18億円	52億円
計	949億円	978億円	1,011億円	2,938億円

修正2 第1号被保険者の介護保険料（平成30～32年度）

（最終的な保険料案が決定したため）

【修正内容】

最終案 112 ページ（素案 110 ページ）

【第1号被保険者の第7期介護保険料（基準額）の算定】

第1号被保険者の第7期介護保険料（基準額）：月額 6,090円

◆ 修正1及び修正2に伴い、以下も変更となる。

- 各サービスの利用見込量（最終案 95・96 ページ／素案 93・94 ページ）
- 第7期介護保険料の設定イメージ（最終案 113 ページ／素案 111 ページ）
- 第1号被保険者の第7期介護保険料（平成30～32年度）（最終案 114 ページ／素案 112 ページ）
- 参考：平成37（2025）年度の見込み（最終案 116 ページ／素案 114 ページ）

3 パブリックコメントによるもの以外の修正箇所

修正 1

地域包括ケアシステムの構築に向けた道すじ（最終案 87 ページ／素案 85 ページ）

素案	修正理由及び修正案
「北九州市人口（推計）」	<p>（修正理由） 高齢化の進展（高齢者数の増加）により、要支援・要介護の認定をうける高齢者数も増えるということを確認していただきやすくするため、要支援・要介護認定者数の見込みも示すもの。</p> <p>（修正案） 以下を追記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2018～2020 年の取組 <u>要支援・要介護認定者 70,008 人</u> <u>(24.2%)</u> ・ 2025 年まで <u>要支援・要介護認定者 74,132 人</u> <u>(26.1%)</u>

修正 2

資料（最終案 121 ページ／素案 119 ページ）

素案	修正理由及び修正案
1 北九州市いきいき長寿プラン策定の経過 2 北九州市いきいき長寿プランの成果指標《参考》 3 用語解説	<p>（修正理由） 介護保険制度への理解を深めていただくとともに、より身近な地域の高齢化の状況を認識いただくため、校区別人口を掲載するもの。</p> <p>（修正案）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 北九州市いきいき長寿プラン策定の経過 2 北九州市いきいき長寿プランの成果指標《参考》 3 <u>介護保険制度の概要</u> 4 <u>校区別人口</u> 5 <u>用語解説</u>